

めでいかすとる
Médicastre



「桜並木光の回廊」

鶴岡地区医師会勉強会抄録

日 時：平成26年4月30日(水) 19：00～
場 所：鶴岡地区医師会 3階講堂

『腫瘍学に基づいた肝・胆道癌の外科治療』

新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野 教授 若井 俊文 先生

欧米では、浸潤のない腫瘍を上皮内腫瘍 intraepithelial neoplasia と診断し、基底膜、粘膜固有層や粘膜下層への浸潤がある場合のみ癌と診断している。日本と欧米との間で粘膜内癌の組織診断基準に差があることに対して、我々はエビデンスを創出し欧米医学界へ挑戦し続けてきた。

胆嚢癌：T1b胆嚢癌では、切除断端が陰性であれば胆嚢摘出術だけで治癒可能であることを報告し (Br J Surg 2001;88:675-8), 日本から発信し続けてきた医学用語“早期胆嚢癌”は国際的に認められる医学用語となった。早期胆嚢癌の肉眼的特徴を明らかにし (Hepatogastroenterology 2012;59:1013-7), 開腹下および腹腔鏡下胆嚢摘出術後に初めて発見された胆嚢癌に対する対処法を報告し (World J Surg 2002;26:867-71), 胆道癌診療ガイドラインに引用掲載されている。胆嚢癌の肝内進展に対しては、肝切除範囲に拘わらず癌遺残の無いR0手術を行うことが肝要であり、進行胆嚢癌に対する肝切除の基本術式は胆嚢床切除であることを報告し (Am J Surg Pathol 2010;34:65-74), 2008年国際肝胆膵外科学会にて Oral Paper Award 受賞, 2010年韓国肝胆膵外科学会・国際シンポジウムにて招待講演に招かれました。2014年3月に韓国ソウルで開催さ

れた国際肝胆膵外科学会において新潟大学坂田純先生が胆嚢癌に対する系統的リンパ節郭清による根治術の遠隔成績を発表し Best Poster Oral Award に輝いた。

胆管癌：“胆管切離断端における癌遺残”は強い独立予後不良因子であり、浸潤癌陽性例の予後は極めて不良であるが、上皮内癌陽性例の遠隔成績は晩期局所再発のリスクはあるものの比較的良好であることを解明し、American Cancer Society から世界初の報告であると認められた (Cancer 2005;103:1210-6)。胆管切離断端に遺残した上皮内癌における53BP1を介した早期DNA損傷修復応答の破綻とアポトーシスの減少が局所再発に関連していることを解明した (Int J Oncol 2011;38:1227-36)。肝内胆管癌と大腸癌肝転移との組織学的鑑別法の提唱 (Hepatogastroenterology 2011;58:583-588), 胆管癌と鑑別が困難な良性胆管狭窄の特徴 (Am Surg 2012;78:1388-91), 抗癌剤耐性機序 (Oncol Rep 2010;23:965-72. Hepatogastroenterology 2011;58:1659-63) を臨床面から解明している。

今後も医学研究を通じてエビデンスを創出し、世界へ向けて研究成果を発信し続ける人材の育成に貢献し、次世代を担う若手を大切に育てていきたい。

鶴岡地区医師会 平成26年度 第1回 臨時総会(抜粋)

日 時：平成26年4月28日(月) 19:00～

場 所：鶴岡地区医師会 3階講堂

三浦議長：定刻となりましたので、鶴岡地区医師会平成26年度第1回臨時総会を開会いたします。最初に御橋事務局長より資格確認をお願いします。

御橋事務局長：資格確認についてご報告いたします。会員総数189名、19時現在の出席者数26名、委任状の提出者108名、計134名となり定款第19条総会の成立に必要な過半数の出席を満たしておりますので、本臨時総会は成立いたします。

三浦議長：ありがとうございました。会長挨拶に移ります。三原会長、宜しく願います。

三原会長：皆さんこんばんは。お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。私からは本日の臨時総会の趣旨について説明させていただき挨拶にかえさせていただきますと思います。

鶴岡地区医師会は、平成25年4月1日から一般社団法人へ移行し、法に基づいた新しい定款のもとで運営されています。

新定款第27条では、「理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする」とされています。来月28日に予定されている定時総会で現役員の任期が終了します。

次期役員の仕事の開始は、来月に予定されている定時総会後からとなりますが、県医師会の代議員などの選出を行う必要性が

ら、臨時総会を開催し、当地区医師会の理事、監事、議長・副議長の選任、また、県医師会の代議員、予備代議員の選出を行うこととなったものです。

あわせて、会費賦課についてお諮りします。

また、山形県医師国保組合会議員、山形県医師信用組合総代、山形県医師会協同組合総代についても報告させていただきます。

なお、定款第32条において、理事会は「会長及び副会長の選任及び解任」の職務を行うこととなっており、次期の会長、副会長は、定時総会後に開催される理事会で選任することになります。それでは、慎重審議のほどよろしく願います。

三浦議長：ありがとうございました。

続きまして議事録署名人の選出に移らせていただきます。どなたか立候補される方はいらっしゃいますでしょうか。どなたもいらっしゃらないようですので、こちらから指名させていただきます。鈴木伸男先生、黒羽根洋司先生の両先生にお願いしたいと思います。よろしく願います。

それでは議案に移ります。第1号議案「鶴岡地区医師会役員等任期満了に伴う改選の件」についてお諮りいたします。

定款第18条「総会の権限」第2号理事及び監事の選任又は解任に関する事項よ

り、定数12名以上15名以内の理事、定数3名以内の監事並びに議長・副議長の選任を行います。なお、これまでは会長・副会長の選任も総会で決議されてきましたが、今回から会長及び副会長の選任及び解雇は定款第32条により理事会の職務となります。それでは初めに理事の選任を行うことにいたします。定款第28条により、鶴岡地区医師会 理事について候補者ごとにお諮りいたします。

武田憲夫候補を選任することに賛成の方は挙手をお願いします。

— 挙手多数 —

賛成多数により、武田憲夫候補を当選といたします。

(以下同様)

三原一郎候補

斎藤慎候補

松田徹候補

土田兼史候補

本田学候補

三科武候補

小野俊孝候補

福原晶子候補

中村秀幸候補

鈴木聡候補

上野寿樹候補

神田秀人候補

三浦道治候補

以上、14名候補者のうち14名を当選といたします。

続きまして、監事の選任を行います。

候補者ごとにお諮りいたします。

斎藤元護候補を選任することに賛成の方は挙手をお願いします。

— 挙手多数 —

賛成多数により、斎藤元護候補を当選といたします。

(以下同様)

阿部修一候補

伊藤茂彦候補

以上、3名候補者のうち3名を当選といたします。

続きまして議長の改選について、定数1名に対し、堀内隆三候補お一人です。

堀内候補を議長とすることに賛成の方は挙手をお願いします。

— 挙手多数 —

賛成多数により、堀内隆三候補を当選といたします。

副議長の改選について、定数1名に対し、斎藤高志候補お一人です。

斎藤候補を副議長とすることに賛成の方は挙手をお願いします。

— 挙手多数 —

賛成多数により斎藤高志候補を当選といたします。

ただいま当選となりました役員の任期につきましては、定款第27条により、来る5月28日に開催される平成25年度の決算に関わる総会終結時を起点とします。続きまして第2号議案「山形県医師会代議員及び予備代議員選出の件」についてお諮りいたします。

一般社団法人山形県医師会定款第13条代議員の選出により、郡市地区医師会の総会において会員の中から選出することになっています。

はじめに山形県医師会代議員定数7名についてお諮りします。

武田憲夫候補、三原一郎候補、松田徹候補、土田兼史候補、三科武候補、小野俊孝候補、上野寿樹候補について賛成の方は挙手をお願いします。

— 挙手多数 —

賛成多数により、7名の山形県医師会代議員を選出いたします。

次に山形県医師会予備代議員定数7名についてお諮りします。

斎藤慎候補、本田学候補、堀内 隆三候補、中村 秀幸候補、鈴木聡候補、斎藤元護候補、伊藤茂彦候補について賛成の方は挙手をお願いします。

— 挙手多数 —

賛成多数により、以上7名の山形県医師会予備代議員を選出いたします。

続いて第3号議案 平成26年度会費賦課(案)及び会費徴収方法(案)承認の件について、提案趣旨の説明をお願いします。

小野理事：私の方からは、会費賦課(案)についてお手元の資料をご覧ください。A会員、B会員、準会員についてそれぞれお手元にあるような会費賦課(案)のご提案でございます。審議のほどよろしく願いいたします。

三浦議長：ありがとうございました。

はじめに会費賦課(案)についてお諮りいたします。

齋藤壽一先生：それぞれの比率を教えてください。

小野理事：平成26年3月31日末現在の人数ですが、A会員は84名、A1 5名、A2 36名、A3 39名、A4 3名、B会員86名、準会員3名で合計192名です。

三浦議長：よろしいでしょうか。それでは只今

の提案に賛成の方は挙手をお願いいたします。

— 挙手多数 —

平成26年度会費賦課案は承認されました。

三浦議長：次に会費賦課の定め方及び徴収方法について説明をお願いします。

小野理事：会費賦課の定め方及び徴収方法ですが、今年度の会費について説明させていただきます。今年度については本日会費賦課(案)をご承認いただきましたが、それまでは会費の定めがございませんでした。4月分の会費も現在のところ徴収しておりません。今年度に限っては、5月分の会費徴収時に2ヶ月分あわせて徴収させていただきたいということがまず一点です。

もう一点は、来年度以降についてです。お手元の資料にあるように第7条経費、会費賦課(案)についてですが、同じように来年度以降も同様のことが発生します。5月の総会で会費賦課(案)をご承認いただくこととなりますので4、5月分は暫定的に前年度と同じ額を徴収させていただきました。5月の定時総会で決定された金額に変更が生じれば、6月に2か月分の差額調整を行います。変更がない場合は、正規の会費とみなすという会費徴収方法をご承認いただきたいという提案でございます。

三浦議長：只今の提案に賛成の方は挙手をお願いいたします。

— 挙手多数 —

会費賦課の定め方及び徴収方法について承認されました。

4. 報告事項についてご説明申し上げます。

三原会長：山形県医師国保組合会議員についてご報告させていただきます。

定数4名のところ、土田兼史先生、本田学先生、福原晶子先生、岡田恒人先生にご承諾いただきました。

山形県医師信用組合総代については、定数8名のところ、黒羽根洋司先生、斎藤慎先生、石橋学先生、土田兼史先生、上野欣一先生、福原晶子先生、中村秀幸先生、横山靖先生にご承諾いただきました。

山形県医師会協同組合総代について、定数6名のところ、斎藤慎先生、土田兼史先生、本田学先生、福原晶子先生、中村秀幸先生と私となり、承諾いただいております。

三浦議長：ありがとうございました。

これで提案ありました議案・報告事項は以上になりますが、全体を通しましてご質問のある方はいらっしゃいますか。

中目先生：厚労省、日本医師会の話を知ると国は社会を変えるという印象を受けています。国が社会を変えるということは法律をもって変えるわけですが、一つは地域医療ビジョンというものを法律化させたということと新たな財政支援制度を作ったということです。地域医療ビジョンというのは、将来の地域の人口動態にあわせて二次医療圏で病床機能を決めていくというものです。鶴岡の一次医療圏である各病院の要望をしっかりと発信するには医師会の強いバックアップが必要だと思います。一次医療圏である荘内病院と協立病院でどのように病床機能、病床配分するかというと医師会が調整役をやらなければいけないと思いますので、今年度から医師会に地域医療ビ

ジョン委員会を作っていただきたいです。今年度は、病床機能の報告だけですが、来年度からは機能、病床数の分配が始まりますので、それに向けて今年から雰囲気を作っていくことと、地区医師会のなかに地域医療ビジョン委員会を作っていただきたいというのが要望です。

三原会長：貴重な意見ありがとうございました。

地域医療ビジョン委員会を立ち上げて、胸襟を開いた話し合いをしながら地域の医療を考えていくという委員会の設置を考えておりました。次期の理事会で決めていくこととなりますが、中目先生の考えを引き継いでいきたいと思っております。今後ともご指導よろしく申し上げます。

中目先生：荘内病院が急性期病院としてこれから存続していくためには、医師会のバックアップが必要ですので、それも含めて検討していただきたいです。

もう一つは、認知症対策に関するものです。医師会にも認知症対策委員会はありますが、あまり活発に行われているようには見受けられません。鶴岡市の単独事業のもの忘れ相談医事業も低調で会員、患者にも支持されておらず、鶴岡は認知症対策には後進国ではないかと思っております。26年度の認知症対策に対する事業計画をできるだけ早く作成していただき、会員に提示していただきたいです。国は、認知症のケアパス等を作るようにと言ってくると思っておりますし、認知症は、社会システムとして支援していかなければいけないので、医師会と他団体とのコミュニケーションをとるとともに、医師会の26年度の認知症対策の計

画を立てて会員に提示していただきたいです。

三原会長：認知症対策については、どの地域でもうまくいっていないと思われれます。鶴岡市が行っているもの忘れ相談医制度はほとんど機能していないと認識しています。診断以前に医認知症の患者さんを支える認知症ケアシステムというべき仕組みができていないため、例え医師が早期に診断しても、患者さんやその家族がその後どうすればよいのか、誰に相談すれば良いのか困っている状況であることは認識しております。医療だけで解決できる課題ではないので、行政を含め地域全体で考えていく場をまずは構築していきたく思っております。

三科武先生：地域医療ビジョンについては、山形県自治体病院協議会では病床数の割り振りは山形大学に任せようという意見が多くありました。ナショナルデータベースに電子レセプトのデータを厚労省が持っている、その結果を分析することで各地域それぞれの病床数を検討されています。各地域で患者層の把握をする必要はあると思えますが、山形県の主導が分からない状況にあるのでみなさまから情報があったら教えていただきたいです。

齋藤壽一先生：医師会内で地域医療ビジョン委員会を作ることはいいことだが、行政に担当部署がないのがネックだと考えられます。医師会と行政と現場がタッグを組む必要があるにも関わらず、行政の担当部署が明らかでないのがさらなる発展を阻害しているのではないかとと思われるので五者懇談会等でこの旨を要望していただきたいです。

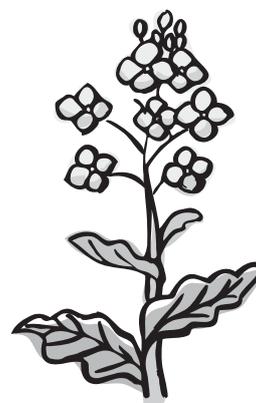
三原会長：今年度の五者懇談会で、地域包括ケ

アシテムに構築に行政は積極的に関わって頂きたいという話題提供の中で、医療をつかさどる部門がないのは片手落ちだという発言はしております。先日、講演で訪れた日南市ではすでに市のなかに医療をつかさどる部門を設置しておりました。鶴岡市でも設置してもらいたいと思いますが、行政は医療に関する知識は乏しいので、積極的な地区医師会の関与が必要になります。行政と医師会が協力してより良い地域医療の仕組みを模索していきたいと考えております。

三浦議長：他にいかがでしょうか。

なければこれをもって、鶴岡地区医師会平成26年度第1回臨時総会を終了いたします。

どうもありがとうございました。



ほたる主催公開講座

日 時：平成26年3月23日(日) 13:30～
場 所：東京第一ホテル鶴岡

「認知症を正しく知ろう！」

～住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために～

地域医療連携室 遠藤 貴恵

今後増え続けるであろう認知症高齢者とその家族を地域で支え続けるためには、医療・介護従事者のみならず住民が「認知症」を正しく知ることが肝要です。そのためには、認知症の予防、早期発見、早期対応の手段、住民の安心感につなげるために情報を提供する機会が必要であると考えました。

去る、3月23日(日)の午後、東京第一ホテル鶴岡にて「認知症を正しく知ろう！～住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために～」をテーマとし、鶴岡市地域包括支援センター連絡会に共催いただき、ほたるが初めて公開講座を開催しました。おかげ様で、312名の住民の皆様にご来場いただき盛会裏に終了することが出来ました。



○第1部

最初に、鶴岡市包括支援センター連絡会のメンバーで構成した「包括劇団もっけだの」による『これはもの忘れ？ それとも認知症？』～日常の「あるある」から、認知症の早期発見、早期対応～と題した寸劇で、日常生活の中のちょっとした動作や会話の中でのもの忘れ、認知症状の気づきについて学び、「もしかして！」と感じたときの相談窓口である各地域担当の包括支援センターを紹介しながら行いました。寸劇は、当日まで何度もリハーサルを重ね、さすが！としか言いようがありません。来場者にも十分伝わったのではないかと感じております。



寸劇の後には、中目千之先生より『認知症への意識を変える』というテーマで、かかりつけ医としてまた、鶴岡市もの忘れ相談医の立場から認知症の症状、診断の仕方、予防法、対応、レビー小体型認知症とアルツハイマー病との違いなど、ユーモアを交えて講演いただきました。会場は笑いに包まれ、来場者に記入いただいたアンケートの中には、先生の講演を聞くのが2回目、3回



目という方もおり、「認知症は誰でもかかる病気だからこそ早期から予防に取り組むことがとても大切だと感じた。65歳以上で10人に1人の割合で認知症になるとのお話には、身近に迫りくる現実なのだと改めて実感しました」との記載もありました。

○第2部

第2部では特別講演として、公益社団法人認知症の人と家族の会山形県支部会員であります、天童市在住の富樫智宏さんと認知症患者である奥様の千佳子さんにご講演をいただきました。千佳子さんは、ご自分で「おかしい」と気付かれたそうですが、受診すること自体がそんな簡単なことではなく、ご夫妻共に元教師ということもあり「診断を受けたときはとにかく恥ずかしく、情けなく、人に知られたくなかった、人に会いたくなかった。特に教え子たちと会うのが何よりいやだった。認知症の人と生活していくのは本当に大変なこと。何事も忘れることを前提に対応しなければならない。そんな自分たちを支えてくれたのが『認知症の人と家族の会』であったし、そこで得られる情報や活動の場は、自分たちの生活の支えとなり生きがいになっている」ということでした。昨夏には、その会の勧めもあり、NHKエンタープライズ主催認知症フォーラムの講演をお引き受けられ、ドキュメンタリー取材を受けたことがきっかけで、いつしか「恥ずかしさ」も無くなり、さまざまな場での講演等を積極的に受け、この会の1週間も米沢での講演をされており、なかなかお忙しい日々を過ごしていらっしゃるようです。このことがきっかけで地域の方々の支援も変わってきているとのことでした。この会を開催するにあたり、事前に富樫さんご夫妻のお宅に訪問させていただいたのですが、その際には「教え子が料理を作って持ってきてくれることもあるんだ」と嬉しそうにお話されていたのが印象的でした。



最後に、歌うことが大好きな千佳子さんの指揮で会場全員で「春が来た」を合唱し、締めとなりました。

○最後に

今回初めて開催した公開講座でしたが、地域での認知症支援について改めて考えさせられる1日であったと感じております。講師の皆様方、また包括支援センター連絡会の皆様方にこの場を借りて改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。



マイペット&マイホビー

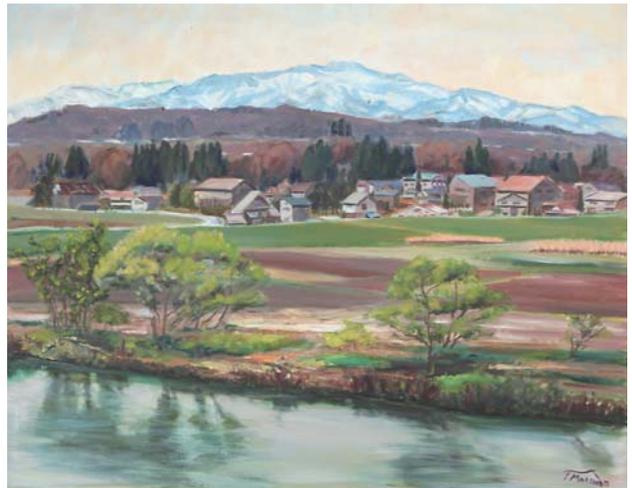
— 第 88 回 —

多芸は無芸、されど楽しき

庄内保健所 松田 徹

常々人の好みや趣味は生まれより育ちに大きく影響されるものだと思っています。物心がついたのは、親の仕事の関係で西川町大井沢という月山の裏にある深い谷あいの集落でした。場所によっては、何と6mにまで達するような豪雪地域で、まさに大自然の中で育ちました。春の山桜は息を飲むような美しさ、夏はほとろの大群の乱舞、秋は栗の実のカーペット、冬は熊狩りの話でもちきりと、こんな山奥を原風景として育ちました。(ついでに、この集落では女医さんが一人で頑張っていたらっしゃいました。生誕100周年を迎え、映画化の準備が進んでいます。私も少なからず影響を受けていますが、どうぞ東京女子医科大出身の先生がおられれば、先輩の映画作りにご寄付を頂きたいいたします。)この生育環境が私の心を作っています。このような所で育ったためか、感激する感性は強いようで、趣味の世界も同様に、何にでも好奇心を発揮します。

私はすでに10数年間、山形で主に風景画を習っています。なかなか上達せず、じれったいな、それでも男か！等の励ましをいただきながら、ほそぼそと下手な絵を描き続けています。庄内に来てから、生育環境の他にも遺伝子のなせるわざを実感できた出来事がありました。それは、旧松山町の文化伝承館に我が家のご先祖様の描いた絵地図があるとのことで、館に申し込み、所蔵庫から出していただき説明をいた



尾花沢の最上川



ご先祖様の絵地図

だいた時のことです。2m四方もあると思われる絵を見た瞬間に遺伝子を思わずにはいられませんでした。腕は??で、生真面目そうな作風に遊び心がちりばめられており、私には6代前のご先祖様とまるで同じ血が流れているのを実感しました。この絵は尾花沢の最上川沿いの風景で、ご先祖様はにこにこしながら、自分だったらこんな描きかたをするなどと話しかけてくるに違いありません。黒川能の会場で見た素描す

るご老人の巧みさに驚き、自分にもこんな腕と楽しみがあったら良いと感じ、どこに暮らそうと楽しみは作れるものだと再認識している次第です。

下手と言えば釣りはとても付き合いの長い趣味です。我が家の男たちは少量のアルコールを与えておけば、何時間でも釣りの話で盛り上がる家風で、下手な釣りよりも釣りの話の方が上手だとお互いに褒め合うほどの育ち方をしました。下手なりに岩魚・ヤマメ、なまず、うなぎ、鯉、ふな釣りに明け暮れた高校までの生活でした。大学時代は近くに川はあったのですが、勉強？とサッカーの毎日で、友達に連れて行ってもらう河口湖のわかさぎ釣りくらいでした。ただ、社会人になってからは研修医生活の合間に海釣りも覚え、日本海にも太平洋にも出かけました。日本海は主に由良からの船釣りか、岩場からの釣り、太平洋では船か浜での投げつりと、仲人様と一緒に本当に良く遊んだものだ和我ながら感心します。特に教えたわけでもないのに、娘は大学で釣友会に入り遊びまわりました。今、庄内ではアジ、キス、ハタハタ釣りなどが楽しく、船は酒田のほかには本医師会の仲間に入れてもらい、年1～2回は栗島近くなどに出かけております。

これまた、下手を売り物にしながら歌も時折うたっています。高校、大学時代は正式な部員

ではないのに合唱部の男声部員不足の際に季節労務者よろしく発表会に駆り出され、愉快的時間を過ごしました。昨年末には「市原太郎と歌おう」という夢のような企画によって酒田市の希望ホールで第9を歌ってしまいました。合唱の町、鶴岡では恥ずかしく、本格的な仲間に入れてとは言えません。

楽しみと言えば畑作りは25年くらい続けています。山形市の家の近所で40坪ほどの畑を作っています。市民農園のように10数人で土地を借りて遊んでいるのですが、この期間中に耕作地は6か所目です。なかなか土地を手に入れることは難しいのですが、格好の社交場となっています。これだけの面積にかなりの種類の作物を植えますので、ごちゃごちゃした楽園となっています。胸をワクワクさせて畑に向かう姿を考えただけで楽しい人生を過ごしている幸せを感じています。

あー、忙しかった。こういう人間の行動をタイプAと言うのですね。せいぜい心筋梗塞にならないように忙中閑ありで楽しもうと考えています。もし最後までお読みの方がいらしたら、多芸は無芸の典型人間（≡ただの物好き）にお茶のお誘いをお願いいたします。難しそうな行政の話や飲み会より、ずっと生き生きした私の表情を感じて頂けるはずです。

第56回鶴岡准看護学院入学式

日 時：平成26年4月10日(木) 13:00～
場 所：鶴岡地区医師会 3階講堂

平成26年4月10日第56回鶴岡准看護学院入学式が挙行されました。10代から40代の26名の学生が緊張しながら、入学の日を迎えました。入学後の2年間は厳しいことや苦しいことばかりではなく、看護の喜びや素晴らしさも分かち合えることを願っています。これからは、医師会会員の先生方をはじめ、健康管理センター、関連施設の皆様に、講義や実習などでお世話になりご指導いただくこととなります。どうぞよろしくお願い致します。

入学して1週間後「入学式を終えて」について書きました作文の中から、新入生の新鮮な気持ちを一部抜粋ではありますを紹介致します。

佐藤 明歩

入学式の誓詞を依頼された時は正直、不安でいっぱいでしたが、何回も練習し入学式当日はあまり緊張せずに読むことができよかったです。入学式の式辞や祝辞では、自分たちが期待されていると知り、改めて一生懸命勉強して立派な准看護師になろうと思う気持ちが強くなりました。入学後は年上の方とも話ができて学校に来るのがとても楽しみです。授業は専門用語が難しく、ついていけるのか不安ですがクラスのみんなと乗り越えていきたいと思っています。

寺林 比奈

入学式はとても緊張していました。初めて教室に入った時は、高校生の時とは違い年上の人が多いと思いましたが、休み時間などに子育ての話や以前の職業などの話が聞けて、高校の時とは違う楽しさを感じています。年齢は違いますが、もっと沢山の話をして、同じ准看護師になる仲間としてお互いを高めあえる関係になり

たいです。これから2年間勉強や実習に頑張っていきたいと思っています。

富樫麻裕美

合格通知が届いても入学式までには実感がありませんでしたが、入学式で新入生として名前を呼ばれ、学生としての生活が始まることを実感しました。入学式では学院長先生が「仲間と共に頑張ること」について話されました。今までも友達がいたからこそ乗り越えられた経験が多くあります。鶴岡准看護学院でも、クラスのみんなと一緒に頑張っていきたいと思っています。

廣瀬 智也

入学式当日は、学院の入り口から階段を上がっていくにつれて不安と期待が込み上げてきたのを覚えています。講堂から2年生が歌う校歌が響いてきました。入学前は社会人で学生生活を離れていた事の不安が頭の中をよぎりました。そんな緊張の中入学式が始まり学院長先生やご来賓の方々のお話を聞いているうちに、准看護師になることに責任の重さを感じてきました。信頼される看護ができるようにクラスメイトと力を合わせて勉強していきたいと思っています。

飛塚 貴代

入学式では御来賓の方々よりたくさんの祝辞をいただきました。その中でも心に残ったことは「大事なことは仲間を作っていく事、そして相談できる人を作っていくって下さい。」とのお話でした。2年後には准看護師の資格を取得し、患者さんの心に寄り添った准看護師を目指し、地域医療に貢献できるように頑張っていきたいと思っています。



明日は晴れるか わたしのお気に入り

4月になると土日の天気が気になる。自宅の裏に50坪程の空き地が有る。これを放置して置くと夏に藪蚊の温床となる。ならば畑にしてしまえと耕し始めて20数年になる。雨が降ると仕事にならない。本職の農家は雨でも働くが、根性無しの素人は晴耕雨読になる。李や梅の木が植えてあるので20坪弱を耕している。最初はスコップや鍬を使っていたが、腰の痛み



に耐えかねて最近は最小の耕転機を使っている。馬鈴薯・茄子・葱・薩摩芋・ほうれん草・香草類等々そして私が嫌いなトマトも植えている。夏の雑草取りは苦痛である。藪蚊や暑さとの戦いになる。仕事後のシャワーとビールが無ければ耐えられない。所ジョージが畑で熱中症になった話を娘にしたら、映画ゴッドファーザーのマーロン・ブランドの様にトマト畑で死ぬなよとからかわれる始末だ。これが私のお気に入りなのだろうか。

(斎藤 慎)

表紙

「桜並木光の回廊」

三原 一郎

写真の面白さひとつに肉眼ではみえないものを表現できる、ということがあります。表紙のような夜景はシャッタースピードが遅くなるため、三脚で固定しないと撮れません。一方で、予想外だったのですが、シャッタースピードが遅いのがため、この撮影場所からは邪魔になる車が光の帯として表現され、いい効果が得られました。写真の面白さです。それにしても、今年は天候にも恵まれ、桜がとりわけきれいでした。

編集後記

愛猫のアメリカンショートヘア15歳オス。人間でいうと76歳。8kg近くあった体重が5kg弱まで減ってしまいました。減量のため、元気に走り回り、今まで上れなかった所にも飛び乗ることが出来るようになり、食欲も旺盛だったため単なる老化によるものと気にしていなかった。しかし先月から下痢、嘔吐が頻回になり、獣医に連れて行ったところ、腫瘍疑いでレントゲン、CT、エコー、血液検査などヒューマングレード並の精査の結果、診断は膵外分泌不全。生涯消化酵素を飲ませなくてはならなくなりました。猫の平均寿命は16歳、ギネス最年長は34歳で人間に換算すると152歳に相当するらしい。猫も栄養状態の改善や医療レベルの向上、良好な生活環境のため平均寿命が延び高齢化している。以前15～16歳でかなりの高齢猫と考えられていたが、最近では20歳くらいまで生きる猫もめずらしくない。15歳は猫の人生のゴールでは無く、クリアーする一つの目標だと考えるとよいと言われている。そして生涯面倒を見る覚悟が必要である。

いつもGWには愛猫2匹をつれて妻の実家である金沢に愛車でやっているのだが、今年はどこにも行かず猫と私の休養となった。

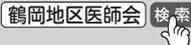
今月号には久しぶりにマイペット&マイホビーシリーズが掲載することが出来ました。やはり医療記事や報告だけでなく、この様な個人コンテンツも読み応えがあり、私としては楽しみにしています。新掲載の私のお気に入りも順調に進行中です。ご多忙の中執筆をお願いすると思いますが、快く承諾頂けると助かります。よろしくお願い致します。

(伊藤 茂彦)

編集委員：伊藤 茂彦・福原 晶子・石原 良・中村 秀幸・斎藤 高志・今立 明宏

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>